

①個別体験談参加者情報（A さん）

簡易情報	① 事故態様 家の目の前の片側 4 車線道路を横断中に普通乗用車にはねられた。当時 9 歳小学 3 年の 2 月。 ② 治療 東京医大八王子医療センターへ救急搬送。意識障害が 3 カ月弱（2 カ月強）続いた。 小学 6 年で症状固定、後遺障害 2 級。 裁判は数か月で終了。 ③ 予後 中学は比較的穏やかに過ごした。 中学は支援クラスだが、3 年時に普通クラスの子と関わるようになり、仲良くなりたくて声をかけたり、思春期特融の女の子に声をかけるなど。担任教師に呼び出された。 高校は知的の支援学校へ進学。女性問題は続いて
------	--

	何度も学校に呼ばれた。 高校卒業後は特例子会社に就職。 本人は震えがあるため就職がなかなか決まらなかった。（周りの同級生が次々と就職が決まるなか、最初は知的障害だけの支援で就職活動を行っていたため決まらず。震えに関して身体障害も含めての就職活動にシフトして何とか仕事が決まった。） その後5年間は特例子会社で勤務。 コロナによる環境変化でストレス増大し退職。 就労移行に2年8カ月通って再就職。 現在26歳。PC入力業務を行っている。 ④ 現在 体幹機能障害と、上肢の震えが全身まで及んでしまふ、音声言語障害で声量のコントロール困難。 震えは今も収まらない。物を取ろうとするとき、歯磨き粉を付ける時など作業するときに震える。 寝ている時は起こらない。 就労活動への影響はほぼ震えが原因。緊張すると
--	--

	震えが大きくなる。 環境に慣れると震えも弱くなる。 対人関係では異性への関心が問題。(男性でも女性でも、抑止力の低下が原因…)
--	--

②個別体験談参加者情報（Bさん）

簡易情報	① 事故態様 小学6年、当時住んでいた三重県津市の家の近所で、信号の無い横断歩道を自転車で横断する際に車にひかれた。 ② 治療 近くの救急病院へ搬送されたが、その日の内に容態急変し三重大学病院へ転送。意識障害は約3週間。 三重大で3カ月、(当時) 藤田衛生の七栗サナトリウム病院に3カ月、夫が埼玉で単身赴任していたので中学2年で埼玉に引っ越し国リハへ。 事故から約5年後の高校2年で、国リハにて症状固定。自賠責2級。 交通事故のことは、高校2年時に示談で解決。 ③ 予後 中学は普通級で、いじめがあった。本人もいじめ
-------------	---

に参っていたが「学校は行くものだ」と思って登校できた。通学は毎日母の送迎だった。

高校は私立の普通校へ。(受け入れてくれる高校を見つけ、いじめを許さない学校だったこともあり入学。埼玉県リハの目の前の秀明高校。いじめの気配があると芽が小さいうちに先生が摘み取る校風だった。)

その後AO入試で大学に進学。

(大学では授業を録音し家で両親がノート作成や見直しを行った。試験範囲についても録音内容を確認し、両親が勉強を教えて試験やレポートを乗り越えてきた。帰国子女で英語が頭に残っていたので、英語は出来た。単位は、レポート 30%、試験 70%くらい。授業の半分はテストを受けたと思う。1 年次は単位を多く落としたが、2 年次から工夫して単位を取得。大学内では英語塾のようなスペースがありその友人や先生がサポートしてくれた。)

高次脳の状態は高校から大学へ申送り & 入学後に親が大学に説明。入学時に大学との話し合いで、ノート作成のサポートはダメと言われたので I C レコーダーで録音することに。

④ 就労～現在

大学 3 年から国リハの生活訓練開始、卒業後は就労移行訓練に。

1 年間は横浜の会社に就労したが遠距離で退職。

しばらく就職できず都内の能力開発校に 1 年間。

コロナになり、再び就労移行訓練。そこで職場実習に行った会社で就職。そこで 4 年 9 カ月勤務していて、いま 33 歳。

就職当時はメモも取らなかったが、最近はメモを取ったり周りの人を見ながら活動できるように。

脳の回復を実感している。

★環境が大事

花木さん：就労支援の環境で穏やかになった。就

	労移行支援の利用期間が2年を超える際に、追加申請に付き添ってくれて本人は穏やかに過ごせた。緊張しているが「怒り」が出ない。就職後も本人に電話してくれるなどフォローしてくれるので花木さんは見守っているだけでOK。 小森さん：うちも5年くらい前までキレやすかったが、就労移行や会社の対応が良くて「怒り」の感情を我慢できるようになった。

③個別体験談参加者情報（C さん）

古田先生との打合せ結果	① 事故態様 2002 年、事故時 28 歳。駅前を徒歩で横断する際に乗用車にひかれた。 ② 治療 埼玉医大に救急搬送、6 日後に主治医が勤務している別の病院に転院しそこで 40 日入院。当時、埼玉県リハで高次脳モデル事業を実施していたことで埼玉県リハに 1 か月入院。 事故から合計約 2 カ月半で自宅退院。 症状固定は事故から 2 年 10 か月後、先崎先生が診断書作成し、自賠責 7 級。 2005 年ごろ裁判終了。（事故から 3 年半） ③ 予後、就労～現在 以後、一般就労したが 1 年くらいで退職。本人に病識がなく、周囲に高次脳のことを話していないため一般就労では続かず。 一般就労でアルバイトなど仕事を転々とした。親
-------------	---

	が障害者雇用を勧めても本人が拒否していた。 15 年ほど同居している彼女の存在が支えになっている。 最近では 2 年半、無職だったが、今年 2025 年 1 月に仕事を見つけすぐ採用してもらえた。生コン会社で現場作業を担当している。一般就労だが続いている。 ★注意障害、記憶障害が影響して、一般就労ではなかなか継続が難しい。
--	--